

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書 26008 藤の沢小学校

1 校訓

「愛鳥愛人【育ち育てる】～自由・共生を学ぶ」

2 学校教育目標

すこやかな子 進んで考える子 思いやりのある子 よさを発揮する子

3 学校経営方針の重点

子どもが、主体的に『動き、伝え合い、共にかなえる』学校の創造

※学校関係者評価、ご意見をお願いいたします。

(A=適切である B=委員の評価と若干の相違、または更なる改善策に期待 C及びD=相違あり。要検討。)

	評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	◆今年度の取組の成果と課題 □改善策・来年度の方向	自己評価の適正	改善策の適切さ
すこやかな子	運動機会の充実	◎	◆体力テストを全学年で実施し、ほぼ全項目全国平均を越えることができた。また、ボール投げ・50m走・跳び箱といった休み時間自由に参加できる体力アップ週間を全校で実施し、運動習慣の定着につなげることができた。	A	A
	計画と工夫	◎	□学年・男女差などを踏まえ、どの子どもも運動や遊びを楽しむことができるよう学校全体で計画・実施する。	A	A
	教材の充実と整備	○	◆校内外を点検・整備したり、安全で楽しく遊ぶ・運動する環境を整えることができた。	A	A
進んで考える子	手立て・指導と評価	○	◆子どもがわかる・できる・楽しい授業の工夫、学びのサポーターによる複数指導体制をとるようにした。指導が結果に繋がるまでさらに改善・工夫が必要と考えている。校内研修として道徳の授業を公開し合い、教職員のよい学びになった。 □計画を立てて学ぶこと、自分の考えを伝えるのが苦手と感じている児童の割合が高めの傾向があり、見通しをもって学ぶ力、対話を通して深く学ぶ力を付けることを目指して授業を行う。	A	A
	ICT	○	◆chromebookの使い方に慣れ、6年生が1年生の導入をサポートするなどの取組も行い、高学年では教科学習でも必要に応じてプレゼンテーションを作成することもできる等、全学年基礎的なことはできるようになっている。 □教員の研修を実施し、子どもたちにとっての正しい活用の幅を広げるとともに、インターネットの安全な使い方の指導を続けていく。	A	A
	安全教育	◎	◆今年度はヒグマの目撃情報が続き、引取下校や登下校の保護者付添など地域・保護者にも協力いただいたおかげで教育活動を行うことができた。内容・季節変え避難訓練は5回実施、交通安全教室も全学年で実施、高学年は非行防止教室も警察と連携して行い、校外の生活も啓発し、安全教育に努めた。 □非行防止教室や校外の生活は、保護者にも広く声を掛け、関係機関と連携して啓発を続けていく。	A	A
思いやりのある子	道徳教育・生命尊重活動	◎	◆植物博士・かんじきウォークなど藤の沢小ならではの体験や、めぐまれた環境を生かし、日常の学習や休み時間で通して生命尊重の心を育てることができた。道徳の授業の充実を図っているが、家庭や地域と連携した取組の必要性を感じている。 □学校の周りの森林をさらに有効に活用し、愛鳥祭、植物博士などねらいを明確にして続けていく。学校・家庭・園が協力して豊かな心を育てていきたい。	A	A
	いじめの予防・対策	◎	◆悩みやいじめに関するアンケート1回、学校独自のみんなのくらしアンケート2回行い、全児童と担任が3回面談を行い教職員で情報を共有して対応できるようにしてきた。月に一度いじめ対策会議をSCを交えて定例で行い、日常の見取り、教育相談、保護者との連携をきめ細やかに行う心がけてきた。	A	A
	子ども理解	◎	□アンケート・個人面談の充実、全職員で子どもの悩み・状況を共有する。	A	A
よさを発揮する子	特別活動の充実 学校行事 学級活動 児童活動	○	◆伝統の「愛鳥祭」では児童企画のゲーム・クイズを全校で楽しんだ。今年度は「開校を祝う週間」を作り、各委員会工夫して学校の誕生日を祝う企画を実施することができた。「開校を祝う会」は土曜参観に実施し、保護者にも子どもたち生き生きとした様子を見ていただいた。運動会・学習発表会はブロックで取り組み、子ども同士の学びが多かった。性の指導、食指導、話し合い活動などの学級活動も適宜行ってきた。 □次年度も全校朝会で委員会のコーナーを設けるなど行事・児童活動・学級活動で子どもの自主性を発揮できるように計画を立てて進めていきたい。	A	A
	相談体制	◎	◆スクールカウンセラー(SC)、巡回相談員など、専門の方に児童の様子を見ていただき、教職員と情報を共有して個々に応じた指導に生かすことができた。SCの授業はブロックごとに全学年に実施、保護者向けの講演会も実施し、子どもも保護者もいつでも相談できる安心感に繋がるようにした。 □スクールカウンセラーだよりや講演会を継続し、いつでも誰でも教職員・専門の方に相談できる体制をつくる。	A	A
【学校関係者評価委員会による意見】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に様々な工夫が見られ、成果を上げていることが分かり、大変よかったと感じる。</li> <li>・来年度の課題も明確であり、一つ一つ実践していただきたい。</li> <li>・児童の様子を見せていただき、素直で子どもらしいよさを感じる。</li> <li>・少人数で仲のよい家族的な思いやりのある人間関係ができていると感じる。今後、統合や中学校への進学に向けて、世の中には様々な考えや生き方があることも今後学んでほしい。</li> </ul>					
信頼される学校づくりのために	教職員の協働体制	◎	◆低中高学年のブロックで、運動会・学習発表会などの行事、朝の読み聞かせ、合同の学習・活動を積極的に取り入れ、教職員みんなで子どもを見守るようになってきた。	A	A
	ホームページ・お便り	○	◆HPは学校の様子を公開したり、学校だより・ほげんだより・給食だより・SCだより、札幌らしい特色ある教育の取組などを公開している。すぐる(学校メール)を利用してPTAアンケートを行うなど、活用も進んできた。	A	A
	学校評価・保護者アンケート	○	□個人情報の取り扱いをより一層慎重に細心の注意をはらいながら行い、必要な情報を公開していく。	A	A
	地域・学校間連携	○	◆藤野地区グランドデザインのもと、藤野中学校区パートナー校教職員での話し合いや授業参観、子どもの交流を行ってきた。幼保小連携事業でも、教員と保育者が園・学校の参観や交流を行った。コミュニティースクール構想も視野に入れ、さらに地域との連携が必要だと考える。 □地域・保護者の方のご協力・支援を受け、充実した教育を実施していきたい。	A	A
【学校関係者評価委員会による意見】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより等で学校の様子を知ることができるので、これからもお願いしたい。</li> <li>・地域、学校間連携を継続して取り組んでいただきたい。</li> <li>・chromebookの使い方に興味があるので、使用状況を(授業参観などで)ぜひ確認したいと感じている。</li> <li>・藤野地区は自然環境もよく、のびのびと子どもを育てるにはとてもよいと思う。この環境を生かした特色ある学校づくりにさらに取り組んでほしい。ヒグマの件で制約されることが残念だが「小鳥の村」(を含む豊かな自然)とのふれ合いも大切にしたいところである。</li> </ul>					

※「達成状況」の欄は、各項目を『◎:強く思う』『○:そう思う』『△:あまり思わない』『×:全く思わない』として、自己評価したものです。